

## 3.11復興支援活動『気仙沼地区視察』を実施しました！！

東日本大震災発生から10年が経過しました。これまで労働組合では、組合本部と連携した石巻ボランティアのほか支部独自の活動として県内の被災地各地の視察を行っています。今回は6月3日（木）に実施した、気仙沼地区にて行った語り部ガイドや防災セミナーについて報告します。

### 語り部ガイドによる市内視察

- 一般社団法人『気仙沼コンベンション協会様』に語り部ガイドを依頼し、気仙沼市内の各所を視察しました。
- 震災当時から変わった街並みや、商店や住宅地の移設、インフラの整備状況などご説明を頂きました。
- 景観を損なわない窓付きの防潮堤や、津波による浮力で起立するフラップゲートと呼ばれる防潮堤など、震災以降に設置された防潮堤には様々な工夫がされていました。
- 途中には、2021年3月に開通した『気仙沼湾横断橋』を間近に見ることができました。これまで整備されてきた復興道路が全区間開通し、仙台市と岩手県宮古市が高速で直結。物流の効率化や救急医療体制の強化に期待されているそうです。
- 最後に、2月に開園した『復興記念公園』を訪れました。10か所の候補地から、海が一望できることが評価され選ばれた公園には、犠牲になられた方々の名前が刻まれた銘板や、モニュメントが設置されていました。



### 〈実施の目的〉

- ① 震災を『忘れない・風化させない』。経験を次世代に繋いでいく
- ② 『当時の状況』『復興の状況』『防災』など、震災に対する知識を広く学ぶ
- ③ 復興支援として、今後何ができるか考える機会（きっかけ）にする

### 気仙沼伝承館の視察と防災セミナー

- 気仙沼向陽高校の跡地を震災遺構として残している『伝承館』。震災当時の様子を残されている施設内には、津波により打ち上げられた車のほか、校舎の4階まで津波が到達していたことが分かる外壁への被害などを見ることができ、改めて津波の恐ろしさを感じました。
- 施設内を視察した後は、伝承館の館長である佐藤様による防災セミナーを受講しました。気仙沼市では、行政と学校と住民が連携した、防災教育をはじめとする対策が行われていました。しかし、震災発生時にはその対策を上回る事象が起きていたとのことで、「マニュアルにはない、想像する中での初動対応が重要」と教わりました。
- セミナーの終盤には、この先の自然災害への備えとして「自分の生活圏のハザードマップを知っておくことの重要性」など、今の内に想定しておく項目を分かりやすく説明していただきました。



### 〈問合せ〉

組合事務所：2673(内線) 261-3185(外線) [sendai@imgu.or.jp\(mail\)](mailto:sendai@imgu.or.jp)  
 担当：鈴木(食品1)・加藤(雑貨1兼婦人子供)・真山(労働組合)